

どもたちの興味関心を引き出す環境を整え、様々な事に挑戦しようとする子どもを育てていくことが大切だという話を伺い、改めて自分たちの保育のすすめ方や環境を見直しているところです。

心の声に耳を傾けながら、一人ひとりの思いに応えていく保育

年少の子どもたちも保育者と一緒に見よう見まねですり潰して色水を作る姿がみられました。

見て、聴いて、触れて五感を使って遊べる環境を工夫し、ともに楽しみ感動しながら、子どもたちがその気になって取り組む保育をすすめていきたいと思っています。

小さい時に大人に思いを受けとめられ、話をしっかりと聞いてもらって育った子どもは、自分の思いをちゃんと伝えるようになり、相手の話も聞き状況判断をすることができるようになります。これからの幼児教育では、「自分の意見を伝え、人の話を聞き、どうしたら上手くいくかを考え調整する力（問題解決能力）」が求められるといわれています。

幼児期のごっこあそびなど、友だちとのやりとりの中で身につけていくと言われていますが、

しっかりと人の話を聞いたり、状況判断ができるようになるには

それぞれの年齢にあった劇あそびや遊戯、リズム表現をしながら、子どもたち一人ひとりが楽しんで自分を表現できるように、

気持ちをひとつにして奏でるハーモニーなどのすばらしさを感じてほしいと思います。

に大人の仲立ちのもと、自分たちで問題を乗り越えていくという経験が、「おはようございます。」の元気な子どもたちの挨拶とともに3学期が始まりました。

自分たちで作りに上げていく達成感や気持ちを合わせて演奏する心地よさも味わってほしいと思っています。

年少は、保育者や友だちと一緒に、好きな動物になってやりとりをしたり、曲に合わせて踊ることを十分に楽しんでいき、年中になると、友だちと合わせるなど、少しずつ相手のことも考えるようになりますので、その姿を大切にしながら、子どもたちがイメージしたことを表現できるようにすすめていきます。年長では、子どもたちで台詞や振り付けを考えたりしながら、自分たちで作りに上げていったり、みんなで気持ちを合わせて演奏する達成感も味わえるようにしていきたいと思っています。

日ごろからあそびの中で、いろいろな楽器に触れたり、お話を楽しんだりしていきながら、子どもたちがその気になって、活動をしていけるようにしていきたいと思います。

発表会では、上手に出来るということだけではなく、日々の過程を大切に子どもたちと一緒に取り組んでいきます。園からも、できるだけ日頃の活動の様子をお知らせして保護者の方と共有していきたいと思いますが、ご家庭でもお子さんの話をしっかりと聞いて、「楽しみにしているよ」と励まし応援してあげてください。

このように乳児期に十分に相手をしてもらった子どもは、幼児になって、友だちと一緒に協力したり助け合ったりして楽しく表現して遊び、時には上手くないこともあるとは思いますが、我慢をしたり折り合いをつけたりして、小さな胸の中で葛藤しながら、乗り越えていくことができるようになります。この経験が将来に渡り、自分の意見をしっかりと話せたり、相手の話にも耳を傾けることができるコミュニケーション能力となり、前向きに取り組む挑戦する力（生きる力）となっていくものと思います。

この度、全日本私立幼稚園連合会が発行した「22世紀の日本が輝き続けるために」という小冊子の中に、これから小学校以降の教育では、「課題を解決する新しい能力の育成」が求められ、その問題解決型の学力の根幹は幼児教育にあるという認識がOECD諸国で広がっていると書かれています。

私たちは、その土台となる乳幼児期に、0歳から子どもたちが、見て・聞いて・触れて肌で感じ、五感を通してやってみたくなるような環境を用意し、子どもの思いや発想を受けとめたり、驚きと感動をともにしたりしながら、楽しい保育をくり広げ、「何かできるのではなく、したくなる子」を育てて、小学校へつなげていくことが、改めて大切な役割であるということを感じています。

園長 河野純子

このように小さい時に大好きな大人に可愛がられた、大切にされたという経験がこれからの子どもの成長に大きく影響していくのです。

大人が「やりなさい」と言ってできるものではありません。

安心して楽しんでありのままの自分を表現できるようになるのです。

発表会では、子どもたちの好きなお話や音楽などを通して、イメージした世界を友だちと一緒に表現していきます。子どもたちが、その気になって取り組み、自分の感じたことを素直に表現できるようになるには、0歳の赤ちゃんの時に、しっかりと声をかけられ、あやされて相手をしてもらうこと、1、2歳の反抗期とよばれる自我の芽生えの時期には、しっかりと話を聞いてもらい「そうだね。〇〇したかったね。」と十分に気持ちを受けとめてもらい、「でもね…」と大人の思いを返してもらうという経験が、「自分は愛されている」「自分は自分でいいんだ」という自信（自己肯定感）となり、安心して楽しんでありのままの自分を表現できるようになるのです。

そして、子どもたちには、あそびの中で好きなあそびを見つけて集中して取り組むこと、最後まで諦めずにやり通すこと、友だちと協力することの楽しさやトラブルが起きた時にはみんなで一緒に考え乗り越えていくことを経験してほしいと思います。

今年も子どもたちがしたくなる環境を考え、子どもの思いや発想を受けとめたり、驚きと感動をともにしたりしながら、楽しい保育をくり広げていきたいと思います。

乳児期に十分に愛情を注がれ、しっかりと相手をしてもらって自己肯定感が育っている子どもは、自分の意見をきちんと話したり、人の話に耳を傾け共感し、何事にも前向きに挑戦し取り組めるようになります。乳幼児期の育ちが、生涯に渡って大きな影響を及ぼすのです。

現在、幼稚園教育要領の改訂がすすめられており、幼児教育の在り方が大きく変わろうとしています。これまでは、教えられたことを知識として覚えることが中心でしたが、これからは覚えることだけでなく、活動（あそび）を通して、様々なことに興味を持ち、何事にも積極的に取り組み挑戦しようとする態度が求められるとされています。

現在少子化やグローバル化の進展、技術革新など社会の変容とともに、子どもたちの置かれている状況が変化し、教育が大きく変わろうとしています。従来の教育で重要視されてきた記憶力や教えられたとおり正確に行う能力だけでなく、自分が向き合っている問題を解決する能力（問題解決能力）や、子どもが主体的に問題を発見し、解決していくという能動的学習（アクティブラーニング）の育成が求められています。

になるように環境を整えたり、子どもからの発想を活かしあそびを次に展開していく中で、

よって育つ能力が、小学校以降の問題解決能力やコミュニケーション能力などの基礎になるとされています。

このように乳幼児期に、集中と状況判断する力を身につけていくことが、小学校での学習意欲につながり、いろいろな事に挑戦していく子どもに

、集中して遊びこむ主体的な活動の中で、

0歳からの幼児教育とは、乳児期に大好

乳児期の大人の関わりが、幼児期そしてそれ以降の人生を大きく左右すると言っても過言ではありません。基盤になっていると言ってもいいでしょう。このような「生きる基礎」を身につけた子が3歳になると、集団の中で先生の意図した教育活動をよろこび、先生と一緒に考えたり、友達と考えを出し合って新しいアイデアを見つけて行動するようになります。このような集団生活の中でも自ら考え行動することができる教育活動を、「アクティブ・ラーニング」と言い、小学校でも取り入れようとしているところです。

0歳からの幼児教育とは、3歳になるまでに幼児教育に必要な大人に対する信頼感や安心感、仲間との協調性、一緒に遊ぶ中で育つ集中力、集団生活に必要な最小限度のルールやマナーを守る気持ちを、0歳から順に身に付けてもらおうとするものです。

0歳からの幼児教育とは、乳児期に大好きな大人にしっかりと相手をしてもらったり、丸ごと受けとめてもらうことで、大人に対する信頼感や安心感が育ち、自己肯定感を高めます。また、子どもたちが自ら選んで遊べる環境の中で、驚きと感動を保育者と共にしながら、乳児期にあっても子どもたちの「何かな？おもしろそう」という期待感と、「やってみよう」という意欲を育て、幼稚園の集団でのあそびにつながっていきます。

乳児期に大人がしっかりと語りかけたり、相手をして丸ごと受けとめていきながら、大人に対する信頼感や安心感を育て、自分は大切な存在だという「自己肯定感」が高まることで、園舎横の道路も長時間になるとご近所の方にご迷惑がかかりますので、すみやかにご帰宅のご協力をお願いします。また、小型車のスペースに大型車を止められると、離合が難しく危険ですので、指定の場所をお願いします。

子どもたちにとっても、保護者の方にとっても楽しい保育をしまります。

一年間、どうぞよろしく願いいたします。

また、小学校就学までに身につけておきたい生活習慣につきましても、ご家庭と連携を取り確認しながらすすめてまいりたいと思います。

思いをくみ取り、子どもとの対話を大切にしながら、考えたり工夫したりして遊べる環境を整えていきたいと思います。また、

そして、幼児期では、子ども同士で考えたり工夫したりして遊ぶ中で、友だちと遊ぶ楽しさや協力して成し遂げる達成感を体験していきながら集中力を身につけ、「もっとやってみよう」という次へ挑戦する力を養います。時には、自分の思いをわかってもらえなかったり、意見がぶつかったりすることがありますが、これも大事な経験のひとつです。いろいろな場面で、大人の目線で解決してしまうのではなく、子ども同士がお互いの思いを聞きながら、自分たちで考え折り合いをつけて解決していくことが、小学校以降の問題解決能力につながり、状況を判断する力になっていきます。

これからも子どもたちの「もっと遊びたい」「もっとやりたい」という気持ちを次につなげ子どもたちが主体的に遊び込んでいける

また、乳幼児期に身につけたい基本的な生活習慣につきましても、保護者の方と連携をとり確認しながらすすめてまいります。

生活習慣の習得は、子どもたちが意欲的に充実した毎日を送る基盤となりますので、ご家庭と連携を取りながら0歳から段階をおって身につけていけるようにしていきたいと思っております。

一躍子どもたちの大人気で、登園時ちよっぴり涙がでていた子どもも「こいのぼり一緒に見に行こうか？」と声をかけると気持ちが切りかわることが多く、この時期こいのぼりの存在に助けられています

これがこれからの教育で大事にされる問題解決能力や、自ら考え行動するという主体性につながっていくのではないかと思います。

過ごしやすい季節になりました。暖かな陽ざしとさわやかな風を感じながら、お散歩、虫探し、泥団子づくり…。戸外でのびのびと遊んでいきたいと思います。

時には我慢して折り合いをつけていくことを経験しながら、みんなで答えを見つけ、やり遂げる喜びや達成感を味わってほしいと思います。

これがこれからの教育で大事にされる問題解決能力や、自ら考え行動するという主体性につながっていくのではないかと思います。

時には我慢して折り合いをつけていくことを経験しながら、みんなで答えを見つけ、やり遂げる喜びや達成感を味わってほしいと思います。この「学び」が次への意欲につながり、いろいろなことに主体的に関わっていく力になるのだと思います。私は量りではかつての重さ比べをイメージしていましたが、そういえば子どもたちは量りの使い方や数字の読み方も知らないことに気づきたのですが、あえて量りの使い方は話しませんでした。そのためには、赤ちゃんの時から表情やしぐさから思いをしっかり受け止め返していきながら信頼感を育むこと、言葉がではじめる2歳ぐらいからは、そして、考えたことをちゃんと自分の言葉で語り表現するようになることだと思います。きっと、Yちゃんもお家の人に同じように気持ちに寄り添ってもらっているんでしょうね。

乳幼児期の今が大事で、この時期に思いをしっかりとくみ取り、丁寧に関わってあげることで、子どもたちは自信をもって次のステップへ挑戦
きっと子どもの心に伝わると思います。

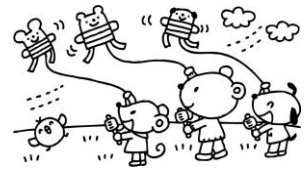
乳児クラスの小さなお友だちも園庭で遊ぶことが多くなり、運動会の練習をしている様子を「がんばれ～」と手をたたいて応援するかわいい姿が見られ、「ヨーイドン」の合図と一緒に走ったり、真似っこで身体を動かして体操をしたりしています。きっと、お兄さんお姉さんの姿を見ながら、あんな風にやってみたいという気持ちが芽生えているんでしょうね。

来年度改訂される幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」特に年長のリレーが人気があり、年長児に限らず、年中、年少児も朝夕園庭に出た時には、スコップを片手にリレーごっこをしたり、異年齢合同のリレーをしたりして、盛り上がっています。また、乳児

幼児期の集団の中で主体的な出来ばえや見栄えなどを大人の概念で、これは、制作だけではなく、乳幼児期の様々なあそびの中でも同じことが言えるのだと思います。いろいろ感じたり考えたりして夢中になって遊ぶ経験と、大人に見守られ認められているという安心感が、自信となり次に向かってチャレンジするやる気となり、

自分たちの作ったものを得意そうに説明したり、親子で会話しながら楽しんでいる姿がみられました。
作品づくりにとらわれず、制作あそびを通して、遊んだ姿を見ていただけだと思います。

大人から見ると、遊んでばかりと考えるかもしれませんが、子どもにとっては全てがあそびで、あそびが学びなのです。



園だより 1月号



【見えない力】



あけまして、おめでとうございます。
 今年もどうぞよろしくお願ひいたします。
 年末年始のお休みは、ご家族でゆっくりとされたり、おじいちゃん、おばあちゃん、ご親戚の方と会われたりと、楽しい時間を過ごされたことでしょうか。子どもたちから楽しいお話が聞かれそうです。
 4月からすいこうでは、「0歳からの幼児教育」をテーマに「子どもの主体的なあそび」に着目し、「主体的な子どもを育てるためには、どのような環境を用意し、私たちはどのように子どもに接していけばよいのか」を考えながら、保育をすすめてまいりました。
 これからの教育・保育は、IQや記憶力、教えられたとおり正確に行う能力だけではなく、目標に向かって最後まで粘り強くやり抜く力、友だちと協調したり、自分の感情をコントロールする力など、見えない心の力(非認知能力)を育てることが求められています。この力は、トレーニングによって身につくものではなく、乳幼児期のあそびの中で育まれます。大人から見ると、遊んでばかりと思えるようなことも、子どもにとっては生きることに全てがあそびで、いろいろなことを学んでいるのです。すぐに結果としてあらわれるものではありませんが、将来自分で考え問題を解決していく力、人生を主体的に生き抜いていく大切な力になるといわれています。
 そして、この非認知能力を育む基盤となるのが、乳児期の大人の関わりの中で形成される愛着関係にあります。0歳の時から愛されること、たくさん声をかけられ相手をし

てもらふこと、いつも傍で心を通わせ、驚きや感動を共にしてもらふことで、大人への信頼感や自分が大切にされているという自己肯定感(自分に対する自信)が身につきます。自己肯定感こそが、子どもの心の成長に最も大切なパワーになるものです。この力は、0歳からの積み重ねの中で育まれていくものと考えます。
 さて幼児クラスは、これから発表会に向けての活動が始まります。発表会は子どもたちが自分でイメージした世界を自分なりに歌や劇などで表現するものです。友だちや保育者とのやりとりの中で、一緒に表現する楽しさや友だちと対話しながら協力する喜びを感じたり、思うようにならないマイナスの経験を味わうことも大切な学びになります。そして、子どもたちには、発表会の取り組みの中で「やればできるんだ」という自信を身につけていってほしいと思っています。私たちは、何かできるようになるということだけでなく、子どもたちの心の動きや心の成長にも目を向け、保護者の方にも園でお子さんが取り組む姿やエピソードなどお伝えし、お子さんの成長を共有していきたいと思っています。ご家庭でもいっぱいお話を聞いてあげてくださいね。
 早いもので卒園、進級まで3か月となりました。子どもたちと一緒に一日一日を大切に有意義に過ごしてまいりたいと思います。

園長 河野純子

行事予定

			園開放★
1	月	元旦	
2	火		
3	水		
4	木		
5	金	保育開始(2,3号認定)	
6	土		
7	日		
8	月	成人の日	
9	火	始園式 11:30 降園(1号認定)	
10	水	よいこの交通安全教室(安佐北交通安全協会)	☆
11	木		
12	金		☆
13	土		
14	日		
15	月	身体測定(年長)	☆
16	火	身体測定(年中)	
17	水	身体測定(年少)	☆
18	木	トムソーヤ☆きっず	
19	金		☆
20	土		
21	日		
22	月		☆
23	火	誕生日会(幼児)	
24	水		☆
25	木	避難訓練	
26	金	誕生日会・身体測定(乳児)	☆
27	土		
28	日		
29	月		☆
30	火		
31	水		☆

1月分の保育料引落日は、
1月31日(水)です。(1,2,3号)

【十二支の由来】

あるとき、神様が動物たちを集めて、「お正月の朝、早く来た者から12番の者をその年の大将とする」と言いました。猫は、うっかりしていたのでねずみに尋ねると、ねずみはわざと次の日を伝えました。ねずみが牛のところに行くと、牛は「歩くのがゆっくりだから早く出かけよう」というので、ねずみは牛の背中にのりました。
 朝になり、神様の御殿の門まで来ると、ねずみは牛の背中から飛び降りて「私が一番」とちゃっかり言いました。そして牛が2番。次々とら、うさぎ、たつ、へび、うま、ひつじ、さる、とり、いぬ、いのししと順番に入り、その年の干支にしてもらいました。
 猫はというと、次の日に行っても誰もいないので、門番に尋ねると、「顔を洗って出直してこい!」と言われました。猫が顔を洗うようになり、ねずみを追いかけるのは、この時からだそうです。



【成人の日】

大人になったことを自覚し、自ら生きぬこうとする青年を励ます日で、昭和23年に制定され、平成12年から1月の第2月曜日に定められました。民法では、“満二十歳ヲ以テ成人トス”とあり、法律上独立の社会人としての地位を与えられます。わが国では、古くから成人を祝うしきたりがあり、男性は元服、女性は裳着といいました。まだまだ成人には、これから幾歳月もかかる子どもたちですが、夢と希望を持って成人になれるよう、私たち大人が明るく前向きな姿勢を見せていきたいものです。

2月の予定

- 2/ 3日(金) 豆まき
- 2/ 6日(火) 発表会衣裳撮影(幼児)
- 2/ 8日(木) 発表会予行練習(幼児)
- 2/ 9日(金) //
- 2/17日(金) 30年度新入園児説明会(1号認定) 進級説明会(ぱんだぐみ)
- 2/24日(土) 生活発表会(幼児)
- 2/27日(火) トムソーヤ☆きっず
- 2/28日(水) 誕生日会・身体測定(3号認定)



【9月からの保育】

日中は残暑が厳しい毎日ですが、朝夕は幾分か涼しくなり、秋の気配を感じられるようになりました。

この夏、子どもたちは、水あそびや泥んこ、絵の具あそび、虫取りなど夏ならではのあそびを五感を通して思いっきり楽しみ、いろいろなことに気づいたり、体験したりして、心も身体もひと回り大きく成長したように感じます。

さて、9月からは、行事に向けての活動が多くなります。運動会では全身の運動機能を使って、作品展では手指を使って描いたり制作をしたりして、発表会ではお話の世界や楽器あそびを通して、自分の感じたことや考えたことを表現していきますが、保育者の思いですすめるのではなく、子どもたちと一緒に考えたり話をしたりしながら、子どもたちが自発的に取り組み、自信をもって楽しく自分を表現できるようにしていきたいと思います。「早く走れる、走れない」「上手くできた、できない」など、見栄えや結果だけで判断したりするのではなく、自分で考えたり工夫したり、友だちと協力する楽しさを味わったり、時に思うようにいかないマイナスの経験の中でも、自分で気持ちをコントロールしながら最後まで粘り強く頑張る姿を、子どもたちに寄り添いながら、見守っていきたいと思います。

今年度すいこうでは、「0歳からの幼児教育」をテーマに「子どもの主体的なあそび」に着目し保育をすすめてまいりました。「0歳からの幼児教育」とは、乳児期に大人がしっかり語りかけ相手をして、丸ごと受けとめていくことで、自分に対する自信（自己肯定感）と大人に対する信頼感や安心感を身につけ、

★…園内開放

このように、子どもたちが遊ぶ過程で、育まれる目に見えない力を「非認知能力」といい、この力は、乳幼児期に主体的なあそびを通して身についていくもので、すぐに役立ったり、目に見えて成果がでるものではありませんが、将来、様々なことに自信を持って挑戦したり、困難な場面に出会っても自分で考え問題を解決し、乗り越えていく「生きる力」になるといわれています。

乳幼児期は、人格形成の根っこを育む大切な時期です。将来、子どもたちが色々な経験を通して逞しく育ち、豊かな人生を送っていけるよう、今子どもたちが「何を思っているのかな」「何をしたいのかな」など、子どもの心に寄り添いながら、教師主導ではなく子どもたちが自ら気づき考え遊びこんでいく、子ども主体の保育をすすめていき、根っことなる乳幼児期に十分な栄養を蓄えていきたいと思います。

また、お子さんのより良い成長のためには、ご家庭と園の連携が大切です。声をかけ合いながら、一緒にお子さんの成長を見守っていきましょう。

残暑が厳しい中ですが、運動会の練習が始まります。「早寝、早起き、朝ごはん」を心がけ、お子さんが元気に過ごせるよう体調管理をお願いします。

園長 河野純子